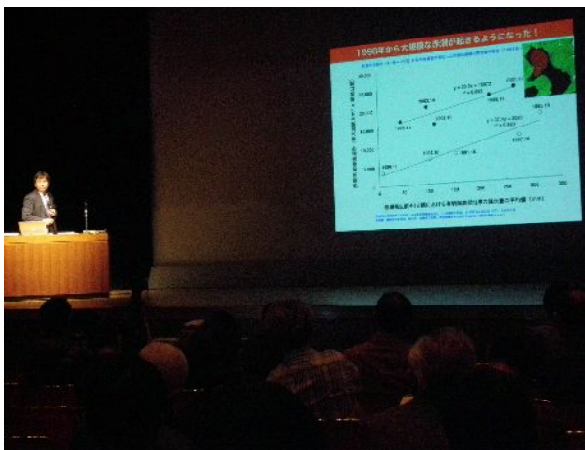


# 有明海・諫早湾 日本初の大規模な環境復元の意義

3月9日、長崎市において日本ベントス学会公開シンポジウム「有明海・諫早湾 日本初の大規模な環境復元の意義」(長崎原爆資料館平和会館ホール)が開催されました。



## 有明海で赤潮 貧酸素水塊

【堤裕昭教授(熊本県立大学)】陸域からの有機物の流入量は従前と変わらないのに、1998年から、有明海全域で赤潮が頻発し大規模化している。2000年頃から有明海の奥部では海底にほとんど酸素がない貧酸素水塊が発生し、海底に暮らすタイラギなどの魚介類が死滅

している。1997年の諫早湾干拓潮受堤防の締め切りとの因果関係を解明するには、水門を開放して調査するしかない。開門すると、有明海の潮流が速くなり、海水がよく海の潮流が速くなり、海水がよく混合する海域が戻るのではないかと。それを調査したい。

## 諫早調整池アオコ汚染深刻

【高橋徹教授(熊本保健科学大学)】淡水化した諫早干拓調整池に有毒アオコが増殖している。飲んだら死にます。

毎年30億円をかけて調整池の水質浄化対策を施しているが、潮受堤防締め切り以降、一度も基準を達成していない。そればかりか年々調整池の水質は悪化し続けている。

アオコ毒の特徴・急性毒性・肝硬変、ミオグロビン尿症(青酸カリ)の50〜200倍強い毒性・慢性毒性

普段からアオコに汚染された調整池の水が諫早湾・有明海に排水されている。開門すると海が汚染されると言われるが、今、普段から汚染された水を排出している。

アオコの生物濃縮(カキやボラ、森山地区の米からもアオコの毒素が検出)。

よみがえれ！  
有明訴訟弁護団  
(後藤 富和)発行  
092-512-1636  
090-9602-0700

## 諫早調整池アオコ汚染深刻

【桃下大・縄田とよか(諫早湾の海辺の生きもの研究会)】ユスリカの大発生(諫早湾調整池の汚染)。排水に群がるボラ。調整池は日本でもっとも水質が悪い湖沼のひとつ。

海をせきとめると水質は悪化する。児島湖では50年間600億円かけて水質浄化対策を行っているが、水質は全く改善しない。

水質を改善するためには海を締め切る堤防を開放するしかない。

## 干潟再生で地域再生・三重

【国分秀樹(三重県水産研究所)】英真湾の再生。真珠養殖、アオノリの養殖。干拓による干潟の減少↓自然浄化能力を超えた汚染↓赤潮、貧酸素水塊の頻発。



アオコは海水を入れれば死滅する。開門して調整池に海水を導入すべき。

陸域と海域のつながりの大切さ。沿岸休耕地を再び干潟に戻すことで、干潟、生物の再生。干潟再生の技術だけでは、事業化は困難。管轄する行政部局と地元住民の理解を得る必要がある。統合的沿岸域管理。地元志摩市の理解と連携。地元企業と連携した新たな干潟再生。時代の変化で必要性が薄れた干拓地について、正しい選択をする勇気が必要。

## 長崎から世界へ・自然共生

【田中克名教授(京都大学、MOE法人森は海の恋人)】宮城県気仙沼の舞根(もうね)湾。巨大地震と津波が蘇らせてくれた干潟に学ぶ未来創生。科学技術への過信。放射能とともに生きなければならなくなった。すべてのツケを次世代に押し付けてしまった。謙虚に自然への畏敬の念を取り戻す。地震、津波によって、三陸リアスの奥部では至る所で干潟がよみがえった。よみがえる干潟と生き物たちに感動した地域住民。子ども達に「海と共に生きる」未来を託す。

防潮堤に頼らない海と共に生きる未来開拓。森に吸着した放射性物質が川を通じて海に流れている。森と海を分けて考えることはできない。

農業、漁業、林業は共に手を携えるべき仲間。命の産業。長崎から、自然共生型のモデルを世界へ。